

CODE 海外災害援助市民センター
2022年度 事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

* 2017年度より、継続プロジェクトと終了予定プロジェクトを明確に表記し、各プロジェクトの事業終了予定時期の項目を追加した。終了予定時期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	2026年度末
	2	中国・四川省地震プロジェクト 新型コロナウイルス感染症	2008年, 2022年	2023年度末 終了
	3	ウクライナ・ロシア避難民支援	2022年	2023年度末
●新規プロジェクト	4	トルコ・シリア地震	2022年	2024年度末
●終了プロジェクト	5	インドネシア・ロンボク島地震、スラウェシ 島地震津波、スンダ海峡火山津波	2018年	2022年度末
	6	トンガ火山噴火災害	2022年	2022年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の 範囲及び予定 人数	ミールバチャコット地域の約 2500 世帯。これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者はのべ 550 世帯(2023年3月末時点)。
実施内容	<p>●ぶどう畑再生支援事業</p> <p>*これまでの経緯</p> <p>イスラム主義勢力タリバンによって焼き払われたミールバチャコット地域のぶどう畑を再生するプロジェクトが2003年からスタートした。300万円を原資に288世帯が参加し、現地の農家たちで作る「ぶどう生産者協同組合」が運営し、各村(4村)から1名が選ばれる“コーポラティブシューラー”が管理してきた。この20年間で550世帯に増加した。</p> <p>2007年から2009年の3年間はJICA草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。日本で技術を学んだ農家たちは、その技術をアフガニスタンで活かしながら、日本の棚式のぶどう栽培を行い、収量が</p>

拡大し、同時に同地域に日本で学んだ有機農法を広めた。

また 2013 年からは現地のレーズンを日本に輸入し、レーズンを通じてアフガニスタンの状況や文化など学ぶ機会(食と国際協力など)を提供してきた。これまでに 570 kgを輸入・販売した。

2003 年からカウンターパートとしてお世話にいただいた L さんが、2-17 年交通事故で逝去された。L さんは、CODE と共にぶどう再生プロジェクトを行ってきた。L さんが亡くなった後は、ご子息の F さんが引き継ぎ、レーズンの輸出業務をサポートしていただいていた。

2021 年 8 月 15 日、イスラム主義勢力タリバンはアフガニスタン全土を制圧し、「アフガニスタン・イスラム首長国」の樹立を宣言した。20 年間駐留したアメリカ軍の撤退を機にタリバンが復権し、圧政を恐れ国外へと退避した人の数は 12 万人以上にのぼる。

日本にも約 800 名のアフガニスタン人が退避してきたが、大使館や JICA の職員のみに限られ、その家族の帯同は認められなかった。先述した F さん家族多数は国外退避を求め、CODE は F さんへの様々な情報の提供、関西 NGO 協議会を通じて外務省や JICA への提言などを行ってきたが、彼らの退避は実現せず、いまだアフガニスタンに留まらざるを得ない状況にある。政変以降の治安の悪化などから F さんとの交信が途絶え、ぶどうプロジェクトの中止が余儀なくされた。

また、12 月にアフガニスタンから神戸市内へ退避してきた S さんをサポートする F さん(アメリカ在住)を通じて、避難者受け入れの保証人 M さんを紹介していただいた。その後、S さんにも「MOTTAINAI やさい便」を届け、時折アフガニスタンの状況をヒアリングしてきた。

また、アフガニスタンのこの状況を受け、難民について学ぶために、近畿ろうきん協賛のオンラインセミナー「若者と難民について考える」を未来基金の若者主体で 2021 年 12 月～2022 年 1 月に 2 回開催した。

CODE は、タリバン制圧後すぐに村井理事が「アフガニスタンに平和がもたらされることを願うメッセージ」を発信し、その後もレポート「アフガニスタンからの贈り物に感謝」を約 50 本発信してきた。

レーズンの輸入・販売に関しては、8 月のタリバンによる全土制圧後、社会の関心が高まったことから、CODE の在庫 10 kg のレーズンがすぐに完売した。

2022 年は、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きたことやアフガニスタン、ミャンマーでの政変やクーデターの状況を踏まえ、近畿ろうきん、関西 NGO 協議会との共催で「難民について考える 今世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか ～ウクライナ・アフガニスタン・ミャンマーから見える日本～」を 2 回シリーズで開催した。詳細は以下。

◎CODE 寺子屋 2022 *4-(6)に再掲

「難民について考える 今世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか

～ウクライナ・アフガニスタン・ミャンマーから見える日本～」

・第 1 回「難民、避難民に対して市民・NGO は何ができるのか」

講 師:折居徳正さん(パスウェイズ・ジャパン代表理事)

田中恵子さん(RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク共同代表)

	<p>日 時:2022年8月7日(日)10:00~12:00 開 催:対面(こうべまちづくり会館)とオンライン 参加者:58名(対面17名、オンライン41名)</p> <p>・第2回「日本における難民の保護は適正か ~ウクライナ・アフガニスタン・ミャンマーから見える日本の保護のあり方」</p> <p>日 時:2022年9月16日(金)18:00~20:00 開 催:オンライン 参加者:37名</p> <p>*その他の動き *コープこうべに関しては4-(6)国内のネットワーク構築事業に再掲 5/10 コープ深江組合員研修「アフガニスタンー20年」で講演(村井理事) 7/12 コープ須磨組合員研修「アフガニスタンー20年」で講演(村井理事) 7/7 アフガニスタン退避者Sさん誕生日会を開催(村井理事、立部さん、高野さん、山村さん、斉藤さん、吉椿) 9/4 JANIC 主催『アフガニスタンからの退避者の実情にせまる』オンライン視聴(村井) 11/11 コープ横尾「アフガニスタンの今」で講演(村井理事) 12/14 アフガニスタン退避者と食事会(村井理事、吉椿)</p>
--	--

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト・新型コロナウイルス感染症支援
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震の被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	(四川大地震)四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民 (新型コロナウイルス感染症) 湖北省武漢市民やボランティア
実施内容	<p>*これまでの経緯</p> <p>◎四川大地震</p> <p>2008年の四川大地震直後からCODEはスタッフの吉椿を現地に派遣し、北川県光明村において、アジア各国のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添い、被災者との関係を築いてきた。</p> <p>また、2011年、光明村の拠点「老年活動センター」を伝統木造構法で建設し、村民の祭りなどのイベントの会場として活用してきた。また、村民自身がセンターを活用し、農家楽(農家レストラン)として運営してきたが、2014年、村の書記・村長が退任したことや出稼ぎが増えたことから、センターが活用される機会が減っていった。</p> <p>2015年からは震災後につながった四川の「NGO備災センター」の張国遠さんとの連携をより促進し、日中双方での学び合いの場を作ってきた。2015年からは、日中NGOボランティア研修交流事業を開始し、全5回で日本の大学生・高校生29名が四川省の被災地で</p>

学びを深めた。また、この事業がきっかけで2017年「中日減災・防災国際交流事業」が実現し、中国の学校関係者やNGOスタッフ23名が神戸で防災・減災の学びを深める機会を提供することができた。その後も、2018年、2019年の四川省での「中日安全技術研修」(参加者25名)では、大阪大学の渥美教授らと吉椿が講師を務めた。

2019年には、台湾集集地震20周年で、台湾、四川、KOBEの三者交流を実施し、台北の国立政治大学で開催された国際シンポジウム「複合災害の協力におけるガバナンス」に張国遠さん、渥美教授、CODE吉椿が参加した。その後も、台中の埔里県の墾南大学で開催された国際シンポジウムにも張さんは登壇し、四川での取り組みを紹介や南投県桃米地区の復興の視察などを行った。

2020年1月には「世界災害語り継ぎフォーラム」にCODEのカウンターパートのエコ・プラウトさん(インドネシア)と張国遠さん(中国四川)をお招きし、CODE寺子屋特別編を開催し、共に学び合う場を設けた。

◎新型コロナウイルス感染症

2019年12月、新型コロナウイルス感染症が最初に爆発的に感染の広がった湖北省武漢市(人口1300万人)は76日間ロックダウンした。これまで連携してきた張国遠さん(NGO備災センター、新安世紀教育安全科技研究院)からCODEと渥美教授(大阪大学)に協力要請があったことからCODEの救援を開始した。張さんたちは、オンラインでボランティアを募り、取りこぼされる高齢者や障がい者、ホームレスを支える武漢の市民ボランティアを遠隔で支える仕組みを構築した。

3月には張さん、渥美教授、CODE吉椿が呼びかけ人となり、国際アライアンス「IACCR」を立ち上げ、台湾、中国、フィリピン、インドなど14の国と地域で民間の取り組みや経験などを共有する学び合いの場を16回開催し、CODEはIACCR事務局の運営をサポートした。

例年実施してきた日中NGOボランティア研修交流事業(未来基金事業の一つ)は、コロナ禍のため海外渡航ができない事から、2019年度から中止しており、2022年度も実施することができなかった。

2022年度末時点で、中国を含めた世界の感染状況も落ち着いてきた事から本事業を終了し、「IACCR」は今後、通常の災害対応に切り替え、中国四川のNGOと連携していく。

【2022年度の主な動き】

2022年度は、コロナ禍のため海外渡航ができない状況から、国際アライアンスIACCRとしてオンラインを活用した研修などを実施するにとどまった。

7/7 中国NGO「若者の防災基礎講座」のビデオ撮影(吉椿)

9/26 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ(渥美教授、寺本さん、吉椿)

10/11 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ(KNC 富永さん、仲井さん、吉椿)

10/12 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ

(中国・張国遠さん、王僚さん、時さん、吉椿)

10/14「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ

	<p>(大阪大学・陶さん、楊さん、山田さん、佐々田さん、山村さん、島村さん、吉椿)</p> <p>10/16 関西 NGO 協議会「オンラインスタディツアー(中国)」を開催 (山村さん、島村さん、植田さん、吉椿)</p> <p>10/31 中国防災減災研修で講演(吉椿)</p> <p>2023/1/31 コロナ禍と日中交流に関するインタビュー(駒澤大学李妍焱教授、吉椿)</p>
--	--

事業名	1-(3) ウクライナ・ロシア支援
実施日時	2022年2月24日～継続中
実施場所	兵庫県神戸市内
受益対象者の 範囲及び予定 人数	兵庫県内に避難してきたウクライナ・ロシアの人たち約100名
実施内容	<p>2022年2月24日、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起き、1年以上を経た今も兵庫県内にはウクライナから109名(2023年3月末時点)の避難者の方々が来神している。</p> <p>CODEは、2021年度末からウクライナだけでなく、ロシアの状況を注視し、情報収集を行ってきた。淡路島に住むロシア人イリーナさんを通じて、神戸市内に避難してきたウクライナ人の避難者の方をご紹介いただき、5月からは「MOTTAINAI やさい便」を直接ウクライナから避難してきた方々に届け始めた。</p> <p>◎「MOTTAINAI やさい便」</p> <p>2022年5月から開始し、これまでに約200回(週1回)の野菜を提供してきた。現在、東灘区、長田区、須磨区、兵庫区、北区、西区、中央区の19世帯40名に毎週、新鮮な野菜を配達している。野菜を届ける際に避難者の方々とのコミュニケーションを通じて見えてきたニーズに対応してきた。これまでに引っ越し5回、自転車提供3台、家電設置や通訳、暖房器具提供、送迎などを行ってきた。</p> <p>8月には神戸市内の公園でウクライナー日本交流会を開催し、72名(ウクライナ人42名、日本人30名)が参加し、BBQ、ゲーム、歌などで交流を行った。またその出会いがきっかけで丹波の有機農家のグループ「ムラとマチの奥丹波」の皆さんのご協力で9月に「稲刈り」にウクライナ人7名が参加した。</p> <p>11月には、チョ・ホンリさんの描いた戦争前のウクライナの風景を描いた「スケッチ展」をCODEと共同で開催し、ウクライナの避難民の状況も報告させていただいた。</p> <p>その他、この「MOTTAINAI やさい便」でクラウドファンディングを検討するための会議を2回開催したが、実施には至らなかった。</p> <p>「MOTTAINAI やさい便の詳細」</p> <p>○購入先:ムラとマチの奥丹波(丹波市)、ジコモファーム(丹波篠山市)、コープこうべみずほ協同農園(三木市)、元CODE理事村上さん(神戸市の西区)、の～ら(豊岡市)、とびまつ森の会(神戸市須磨区)、高木農園(神戸市北区)、その他、神戸市内やたつの市、長崎県島原市などの個人(竹内由美さん、旭</p>

	<p>芳郎さん、河崎紀子さんなど)</p> <p>○提供先:子ども食堂(神戸市内2か所)、ベトナム寺院和楽寺(神戸市)、日越交流センター(神戸市)、在神戸のベトナム、ネパールなどの留学生・技能実習生(神戸市)、国際交流シェアハウスやどかり(神戸市)、藤家外国語学院(神戸市)、アフガニスタン退避者(神戸市)、ウクライナ避難者(神戸市)など</p> <p>○提供先の国籍:ベトナム、ネパール、ミャンマー、インドネシア、バングラデシュ、インド、中国、アフガニスタン、ウクライナ、モルドバ、ロシア、日本</p> <p>○配達:車両2台で村井理事(草地とし子さんが車輛とガソリン代を提供いただいている)と吉樫の2台で毎週配達している。</p> <p>◎農業ボランティア *2-(4)CODE 未来基金に再掲 一人のウクライナ避難者の声から、農業体験が始まった。元 CODE 理事の村上忠孝さんの西区の菜園にウクライナ人 Lさんが、学生ボランティアと共に毎週、農業を体験し、Lさんの生きがいの創出につながっている。</p> <p>◎子守りボランティア *2-(4)CODE 未来基金に再掲 12月からは、ウクライナ避難者で母子家庭の母親たちのストレス軽減のために学生スタッフが中心となり「子守りボランティア」を開始した。これまでに16名の高校生、大学生が参加し、のべ60名のボランティアが3家族の子守りを約40回行ってきた。現在は、中央区の2家族の子守りを行っている。</p> <p>・これまでの実績 12/1 島村さん、12/18 植田昌菜さん、植田隆誠さん、12/19 島村さん、リアさん 12/20 山村さん、12/2 植田さん、12/22 那須公香さん、植田さん 12/23 山村さん 12/25 島村さん、リアさん</p> <p>2023 1/5 島村さん、1/8 山村さん、1/9 植田さん、有田さん、吉樫 1/15 島村さん、吉田さん 1/1 島村さん、吉田さん、1/22 植田さん、中澤さん、濱田さん 1/23 山村さん、有田さん、1/29 島村さん、植田さん、樋上さん、1/30 山村さん、那須さん、 2/2 植田さん、高島さん、施さん、樋上さん、2/5 島村さん、樋上さん、 2/7 植田さん、樋上さん、2/13 島村さん、2/14 島村さん、施さん、高島さん 2/19 樋上さん、山根さん、2/20 有田さん、2/26 樋上さん 2/28 樋上さん、施さん、高島さん、3/5 樋上さん、島村さん、3/6 有田さん、3/7 樋上さん、施さん、高島さん 3/12 樋上さん、3/19 樋上さん、3/21 樋上さん、3/22 高島さん、施さん 3/23 高島さん、施さん 3/26 樋上さん</p> <p>◎2022年度の主な動き 4/7 日本YMCA 同盟「ウクライナ避難者支援団体情報・意見交換会に参加(吉樫) 4/8 JPF「ウクライナ人道危機から一カ月半緊急シンポジウム」に参加(吉樫) 4/22 神戸新聞ウクライナ・難民の取材(吉樫) 4/28 NGO-JICA 協議会勉強会「ウクライナ支援:最新動向と連帯可能性」に参加</p>
--	---

	(吉椿) 大学コンソーシアム神戸「教えて岡部先生、一緒に考える。学生・留学生の ためのウクライナ・ロシア情勢」を聴講(村井理事、吉椿)
5/12	ヒューライツ大阪「ウクライナ侵攻-現地取材したジャーナリストに聴く」を聴講 (村井理事、吉椿)
5/16	東灘区、長田区の避難者へ野菜配達(村井理事、山村さん、吉椿)
5/19	「MOTTAINAI やさい便」クラウドファンディング会議を開催 (室崎代表、宮本副代表、徳山理事、岸本理事、村井理事、岸本理事、 山村さん、黒瀬さん、原田さん、立部さん、頼政さん、吉椿)
5/20	神戸新聞ウクライナ支援の取材(村井理事、吉椿) 東灘区の避難者へ野菜配達(吉椿、上田記者) 長田区の避難者へ野菜配達(村井理事)
5/21	関西 NGO 協議会総会でウクライナ・ロシア支援を報告(吉椿)
6/1	Yahoo「ウクライナ避難民支援ネットワーク」とミーティング(吉椿)
6/2	須磨区の避難者へ野菜配達(村井理事、山村さん、吉椿)
6/6	須磨区の避難者へ自転車と野菜を配達(山本さん、村井理事)
6/9	長田区の避難者へヒアリング(通訳:金子百合子さん、村井理事、 山村さん、吉椿)
	*以下、7月から2023年3月まで、ほぼ週1回ウクライナ避難者へ野菜を配達 (村井理事、吉椿)
7/14	ウクライナ避難者(北区)へヒアリング(通訳:田中裕子さん、島村さん、 村井理事、吉椿)
7/18	ウクライナ避難者(須磨区)引っ越し(村井理事、高野さん、山村さん、吉椿)
7/22	兵庫県立津名高校(右田さん)ウクライナ募金の打ち合わせ(吉椿)
7/28	クラウドファンディングのワーキングを開催 (室崎代表、宮本副代表、村井理事、榛木理事、黒瀬さん、吉椿)
7/30	ウクライナ避難者(中央区)引っ越し(村井理事、草地とし子さん、島村さん、 細川、吉椿)
8/26	JPF ウクライナ支援報告会に参加(吉椿)
8/27	ウクライナ日本交流会の準備(山村さん、吉椿)
8/28	ウクライナ日本交流会を開催(通訳:金子百合子さん、村井理事、山村さん、 山口さん、高野さん、島村さん、佐野さん、吉椿)
8/30	ウクライナ避難者(兵庫区)引っ越し(吉椿)
9/6	ウクライナ避難者(須磨区)引っ越し(村井理事、山村さん、山口さん、吉椿)
9/14	MOTTAINAI やさい便配達&NHK、朝日新聞取材(吉椿)
9/24	丹波農業フィールドワーク(ウクライナ支援)を開催 (ウクライナ避難者7名、島村さん、立部さん、吉椿) コープこうべフードドライブ譲渡会に出席(草地とし子さん、村井理事)
10/7	NHK「ニュースきん5時」に出演(吉椿)
10/17	Facil ウクライナ避難者支援のヒアリング

	<p>(Facil 村上さん、古林さん、村井理事、吉椿)</p> <p>10/19 MOTTAINAI やさい便取材(毎日新聞高尾さん、吉椿)</p> <p>10/28 立命館宇治高校生と未来基金の交流&ウクライナ避難者報告 (島村さん、植田さん、山村さん、黒瀬さん、吉椿)</p> <p>10/29 立命館宇治高校生たちとウクライナ避難者支援コラボ (山村さん、植田さん、吉椿)</p> <p>11/12 ウクライナ避難者食事会に参加(チョさん、高尾さん、山村さん、植田さん、 吉椿)</p> <p>11/16 JPF ウクライナ人道支援セミナーに参加(吉椿)</p> <p>11/28-12/1 ウクライナスケッチ展開催(チョ・ホンリさん、植田さん、島村さん、 山村さん、吉椿)</p> <p>11/28 ウクライナ支援のためのザクロ収穫(植田さん、村井理事)</p> <p>11/30 ウクライナスケッチ展で避難者支援の講演(吉椿)</p> <p>1/30 名古屋ウクライナ避難者支援のための情報共有会議で講演(吉椿)</p> <p>2/24 ウクライナ避難者平和の集いのサポート(村井理事、島村さん、 植田さん、吉椿)</p> <p>2/27 北区のウクライナ避難者Vさん取材 (毎日新聞井上さん、通訳:田中裕子さん、村井理事)</p>
事業の目標と 終了予定時期	ウクライナの戦争が長期化の様相を呈し、日本に避難してきた人たちもしばらくは祖国に戻ることができないことを想定して、終了は一応 2023 年度末とする。

事業名	1-(4) トルコ・シリア地震支援
実施日時	2023年2月6日～継続中
実施場所	トルコ共和国ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、アディヤマン県など
受益対象者の 範囲及び予定 人数	仮設住宅に居住する被災者約 1000 人
実施内容	<p>2023年2月6日、トルコ南東部を震源とする大地震が発生し、トルコとシリア両国で約 5 万 9000 人が亡くなった。約 250 km の東アナトリア断層が大きく動いた事で被害が広範囲にわたった。</p> <p>【地震の概要】</p> <p>日 時:2023年2月6日(月)4:17(日本時間 10:17)</p> <p>震 源:トルコ東南部ガジアンテプ県ヌルダ郡東 26 km</p> <p>規 模:M7.9 深さ 17.9 km</p> <p>余 震:2/6 13:24(日本時間 19:24)に M7.5</p> <p>2/21 20 時すぎ M6.3 の余震が発生 *これまでに 1 万 1000 回以上の余震</p> <p>被災地:ハタイ県、ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、アディヤマン県、 マラティア県、ディヤルバクル県、アダナ県など 11 県</p>

被害:死者5万8976人、負傷者11万人以上(2023年4月時点)
(トルコ5万500人、シリア8476人)

被災者1560万人(約100万人がテントや避難所で生活)

倒壊家屋 約34万5000棟(トルコ国内)

CODEは発災直後、コープこうべ河崎紀子さんから、トルコ・ネブシェヒル在住の日本語教師、藤本憲志さん(元コープこうべ職員)を紹介していただいたことや1999年のマルマラ海地震の際に通訳としてご協力いただいた岩城あすかさん(箕面市国際交流協会事務局次長)などのご縁から迅速な初動を行う事ができた。4日後の2/10に事務局長の吉椿とインターンの植田隆誠さん(関西学院大学3年生)の2名を現地に派遣し、被災地の調査、被災者へのヒアリング、現地NGOとの協議を実施した。(第1次派遣)

なお、この第1次派遣では、コープこうべハート基金から初動調査資金として100万を拠出していただいた。また、アウトドアブランド「モンベル」よりもテント、寝袋、防寒具などの救援物資も提供いただき、被災者へ配布した。

【第1次派遣の概要】

目的:復興支援に向けた初動調査、ヒアリング、防寒物資提供

日程:2023年2月10日(金)~18日(土)*現地滞在6日間

訪問地:ガジアンテプ県ガジアンテプ市、ヌルダ郡

カフラマンマラシュ県カフラマンマラシュ市

アディヤマン県

派遣者:植田隆盛(CODEインターン、関西学院大学3年生)

吉椿雅道(CODE事務局長)

協力者:藤本憲志さん(ネブシェヒル大学日本語学科講師、元コープこうべ人事教育部)

ウムートさん(通訳:ネブシェヒル大学日本語学科3年生)

オーズハンさん(通訳:ネブシェヒル大学日本語学科3年生)

ハサンさん(NGO ACEV コーディネーター 99年通訳 岩城さんの義弟)

メハメットさん(Active Participants Association メンバー)

内容:被害状況の調査、被災者へのヒアリング、救援物資(モンベルの防寒具、雨具、テント、マットなど)の提供、現地NGOやボランティア団体との協議など

その後、3/21から第2次派遣として、事務局長の吉椿とインターンの島村優希さん(大阪大学3年生)の2名がトルコの被災地へ向い、その後被災地の状況調査や現地NGOとのより具体的な支援プロジェクトの協議を行った。

【第2次派遣の概要】

目的:復興支援プロジェクトに向けた調査、現地NGOとの協議、被災者へのヒアリング、救援物資(子ども服など)提供、小学生のメッセージの伝達(手紙、歌)

日程:2023年3月21日(火)~31日(金)*現地滞在8日間

訪問地:ガジアンテプ県ガジアンテプ市、ヌルダ郡、サクチャゴス町、エナテペ村

<p>カフラマンマラシュ県カフラマンマラシュ市 アディヤマン県アディヤマン市</p> <p>派遣者: 島村優希 (CODE インターン、大阪大学 3 年生) 吉椿雅道 (CODE 事務局長)</p> <p>協力者: 藤本憲志さん (ネブシェヒル大学日本語学科講師、元コープこうべ人事教育部) オズさん (通訳: アンカラ大学大学院生) ハサンさん (NGO ACEV コーディネーター 99 年通訳 岩城さんの義弟) メハメットさん (Active Participants Association メンバー)</p> <p>内 容: 現地 NGO が建設する仮設住宅の状況を調査、現地 NGO とのプロジェクトの協議、 中学校での災害に関する講義、ガジアンテプの NGO やボランティアたちとの意見 交換会など</p> <p>今後、CODE は復興支援として、現地 NGO の ACEV と連携して仮設住宅での暮らしのサ ポートを展開していくこととなった。</p> <p>◎第 1 次派遣報告会の開催 日 時: 2023 年 2 月 26 日 (日) 14:00~16:30 場 所: 対面 (ふたば学舎)、オンライン 報告者: 植田隆誠 (CODE インターン)、吉椿雅道 (CODE 事務局長) 参加者: 対面 37 名、オンライン 88 名 主 催: CODE 海外災害援助市民センター</p> <p>◎CODE 寺子屋特別編「被災地を知る～トルコ・シリア地震～」 日 時: 2023 年 3 月 18 日 (土) 13:30~15:30 場 所: 兵庫区文化センター第三会議室 講 師: 岩城あすかさん (箕面市国際交流協会) 参加者: 15 名</p> <p>◎トルコ・シリア地震「被災地はいま」報告会 日 時: 2023 年 3 月 24 日 (金) 18:00~20:00 (トルコ時間 12:00~14:00) 場 所: 近畿ろうきん肥後橋ビル 12F メインホール 報告者: トルコより: 島村優希 (CODE 学生スタッフ)、吉椿雅道 (CODE 事務局長) 会場から: 植田隆誠 (CODE 学生スタッフ)、山村太一 (CODE 学生スタッフ) 参加者: 68 名オンライン (58 名、対面 10 名) 主 催: CODE 海外災害援助市民センター 共 催: 近畿ろうきん、関西 NGO 協議会</p> <p>◎2022 年度の主な動き 2/8 NHK トルコ・シリア地震取材 (吉椿) 2/9 金沢大学国際協力論で講義 (吉椿)</p>
--

	<p>神戸新聞・毎日新聞トルコ・シリア地震取材(吉椿)</p> <p>2/10-18 トルコ・シリア地震第1次派遣(植田さん、吉椿)</p> <p>2/13 関テレ「報道ランナー」生中継(吉椿)</p> <p>2/14 MBS「4ちゃんTV」生中継(吉椿)</p> <p>2/15 読売テレビで生中継(吉椿)</p> <p>2/17 NHK きん5時に出演(吉椿)</p> <p>2/19 トルコ・シリア地震街頭募金に参加(全国災害ボランティア支援機構、舞子高校、ワカモノヂカラ、吉椿)</p> <p>トルコ・シリア地震街頭募金に参加(1.17 希望の架け橋、吉椿)</p> <p>NHKトルコ・シリア地震取材(吉椿)</p> <p>2/20 神戸新聞トルコ・シリア地震取材(植田さん、吉椿)</p> <p>MBS「4ちゃんTV」スタジオ出演(吉椿)</p> <p>2/21 テレビ大阪「やさしいニュース」取材(吉椿)</p> <p>近畿ろうきん、関西NGO協議会トルコ・シリア地震報告会打ち合わせ(吉椿)</p> <p>2/22 ラジオ関西「水曜聞きもん」に出演(吉椿)</p> <p>2/23 トルコ・シリア地震街頭募金に参加(1.17 希望の架け橋、植田)</p> <p>2/24 兵庫県からトルコ・シリア地震のヒアリングを受ける(村井理事、吉椿)</p> <p>2/26 トルコ・シリア地震支援派遣報告会 (植田さん、山村さん、島村さん、村井理事、細川、吉椿)</p> <p>2/27 毎日新聞取材(吉椿)</p> <p>3/1 兵庫県知事面談(齊藤知事、植田さん、吉椿) 日本財団トルコ・シリア地震報告会打ち合わせ(吉椿)</p> <p>3/2 サンテレビ「キャッチプラス」スタジオ生出演(吉椿)</p> <p>3/6 藍那小学校トルコ・シリア地震報告会(吉椿) 国際ソロプチミスト神戸東の助成金の打ち合わせ(村井理事、吉椿) 人と防災未来センター、後藤副センター長来所(吉椿) NHK神戸「Live Love ひょうご」、「ホッと関西」に出演(吉椿)</p> <p>3/7 FM わいわい「トルコ・シリア地震」収録(吉椿)</p> <p>3/9 DRA 人と防災未来センター トルコ・シリア地震緊急会議で報告(吉椿)</p> <p>3/11 1.17 希望の架け橋 トルコ・シリア地震街頭募金に参加(吉椿)</p> <p>3/12 NGO ACEV のハサンとミーティング (植田さん、山村さん、島村さん、村井理事、吉椿)</p> <p>3/13 コープこうべ冬頭さん・藤原さんとトルコ・シリア地震支援の打ち合わせ (村井理事、吉椿)</p> <p>3/14 神戸新聞取材(吉椿)</p> <p>3/15 NHKヒアリング(吉椿)</p> <p>3/16 近畿ろうきん、関西NGO協議会「トルコ・シリア地震報告会」打ち合わせ(吉椿) 愛媛大学法文学部社会科学研究会で「トルコ・シリア地震」報告(吉椿)</p> <p>3/17 日本財団ボランティアセンターで「トルコ・シリア地震」報告(植田さん、吉椿)</p> <p>3/18 CODE 寺子屋特別編「被災地を知る」(岩城あすかさん)を開催</p>
--	--

	(山村さん、植田さん、島村さん、村井理事、細川、吉椿) 3/21-4/1 トルコ・シリア地震支援第2次派遣(島村優希、吉椿) 3/22 コープこうべハート基金にて、トルコ・シリア地震報告(植田さん、村井理事) 3/24 近畿ろうきん、関西 NGO 協議会「トルコ・シリア地震報告会」でオンライン報告 (島村さん、植田さん、山村さん、宮本理事、吉椿)
事業の目標と 終了予定時期	現地 NGO が仮設住宅での支援を2年間としていることから、終了時期を2024年度末とする。

●終了したプロジェクト

事業名	1-(3) インドネシア救援プロジェクト (ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峽火山津波)
実施日時	2018年7月29日～
実施場所	インドネシア共和国ロンボク島・スラウェシ島・スンダ海峽(ジャワ島西部)
受益対象者の 範囲及び予定 人数	ロンボク島ジェングラン村リアス地区の住民約670名 スラウェシ島シギ県 JonoOge 村や Langaleso 村の子どもたち約100名 スンダ海峽(ジャワ島バンテン州)の被災地の住民とインドネシア建築家協会の専門家達
実施内容	<p>●これまでの経緯</p> <p>2018年度にインドネシアのロンボク島、スラウェシ島、スンダ海峽(ジャワ島)で立て続けに起きた地震や津波に対して、CODE は、カウンターパートであるエコ・プラウオトさん(デュタ・ワチャナキリスト教大学教授)を通じて、コミュニティセンター建設や木造建築のデザイン提供などの支援を行ってきた。だが、平成30年7月豪雨災害(西日本豪雨)と時期が重なった事もあり、寄付はそれほど集まらなかった。</p> <p>2020年度からは、インドネシアは、新型コロナウイルス感染症の感染者が東南アジア最多となり、エコさんなど現地カウンターパートも行動の制限やコロナ対応に追われ、各プロジェクトの実施が難しくなった。また、ロンボク島やスンダ海峽では政府の住宅再建の方針転換やカウンターパートとコンタクトが取れない状況になり、エコさんを通じて模索してきたが、継続が非常に厳しい事から本事業を一旦終了とする。ただし、現地からの要請があれば再度検討する。各プロジェクトの経緯は以下の通り。</p> <p>◎「ロンボク島地震」</p> <p>発生日:2018年7月29日、8月5日、8月19日 震源地:西ヌサトゥンガラ州都マタラムの北東 規模:M6.4(7/29)、M6.9(8/5)、M6.9(8/19) 被害:死者555名 損壊家屋7万4000棟 (インドネシア国家防災庁発表)</p> <p>●CODEの動きと救援プロジェクト</p> <p>2006年以来連携しているエコ・プラウオトさんや北茂紀さん(北建築構造事務所)などの建築の専門家にご協力いただき、2018年10月にスタッフ上野らを派遣し、現地調査を行った。その結果、北部のジェングラン村リアス地区で住民組織「パトゥ・アジェ」と連携し、エコさんを通じて木造家屋のデザインを提供し、ワークショップを開催することとな</p>

った。2020年1月に来日したエコさんと上野が協議し、現地の木造住宅のワークショップについて議論したが、2020年に入り、現地政府がコンクリートと鉄筋での再建方針を出し、木造での再建が難しい状況になった。また、現在も依然として新型コロナウイルス感染症の深刻な状況でエコさんたちも動けない状況である。

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と現地政府の再建方針の変更があり、木造の再建が難しくなり、現在、エコさんがコロナ禍の状況を鑑み、現地の「パトゥ・アジェ」と新たな方法を模索してきた。

【第1次派遣】

日時:2018年10月29日～11月5日

派遣者:上野智彦、増島智子、北茂紀さん、エコ・プラウトさん(ジョグジャカルタ)、
リンダ・オクタビアさん(ジョグジャカルタ)

◎「スラウェシ島地震・津波」 *2021年度終了

発生日:2018年9月28日

被災地:中スラウェシ州都パルの北約80km

規模:M7.5

被害:死者2090名 行方不明680名

損壊家屋6万7310棟 (インドネシア国家防災庁発表)

●CODEの動きと救援プロジェクト

先述のエコ・プラウトさんにスラウェシ島の建築家のRachmatさんを紹介していただいた。彼らは、インドネシア建築家協会などと連携して資金を集め、伝統木造建築を活かした仮設住宅の建設を被災地の6か所で行っていた。CODEは、下記2度の現地派遣でRachmatさんらと協議を経て、Sigi県のLangaleso村という被災地で、子どもたちが集うコミュニティスペースを伝統木造建築「Tambi または Bantaya」で建設するプロジェクトを実施することとなった。2019年度には、Langaleso村でコミュニティスペースの建設が始まったが、2020年初めより新型コロナウイルス感染症の感染拡大で建設が中断したが、2021年11月にコミュニティスペースが完成し、本事業は終了した。

【第1次派遣】

日時:2018年11月7日～12日

派遣者:吉椿雅道

【第2次派遣】

日時:2019年1月22日～26日

派遣者:吉椿雅道

◎「スンダ海峡火山・津波」

発生日:2018年12月22日

被災地:ジャワ島西部バンテン州、スマトラ島南部ランブン州

規模:アナク・クラカタウ火山島の噴火による島の3分の1の大量の土砂が山体崩壊によって海面に流れおちたことで、津波が発生した。

被害:死者426名 行方不明者29名 負傷者7202名

	<p>(インドネシア国家防災庁発表)</p> <p>●CODEの動きと救援プロジェクト</p> <p>スラウェシ島同様にエコ・プラウトさんに紹介いただいたインドネシア建築家協会の Madcahyo さんらと共に 2019 年 2 月に被災地であるジャワ島西部バンテン州を調査した。日本も同様の災害に見舞われる可能性もあることから学び合いの提案をした。</p> <p>2019 年度は CODE 役員の中川監事を通じて火山の専門家とインドネシアの専門家との学び合いの場を提供することで現地と調整してきたが、2021 年、Madcahyo さんとコンタクトが取れない状況になり、。エコさんによると、現地政府と Madcahyo さんらの関係が悪化したことが原因ではないかとの事である。その後、エコさんを通じて Madcahyo さんにコンタクトを取ってもらってきたが、コンタクトが取れない状況が未だ続いている。</p> <p>【第 1 次派遣】</p> <p>日 時:2019 年 1 月 26 日～30 日</p> <p>派遣者:吉椿雅道</p>
--	--

事業名	1-(6)トンガ火山噴火災害救援プロジェクト
実施日時	2022 年 1 月 15 日～
実施場所	トンガ王国トンガタプ島ヌクアロファ
受益対象者の範囲及び予定人数	トンガタプ島の農業従事者約 100 名
実施内容	<p>* 火山噴火災害の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時:2022 年 1 月 15 日 ・場所:海底火山フンガトンガ・フンガハアパイ(トンガタプ島の北約 65 km) ・被害:死者 4 名 被災者 8 万 8000 人(全人口 10 万 6000 人の約 84%) <ul style="list-style-type: none"> * 2400 人が住む場所を奪われた。 * 津波による住宅倒壊や火山灰降灰による飲料水汚染、健康被害、農業被害など ・津波の状況: <ul style="list-style-type: none"> 最大 15m の津波が発生(津波は日本・奄美大島で 120 cm、チリで 174 cm、米カリフォルニアで 131 cm) <p>* CODE の動き</p> <p>直後から情報収集を開始したが、現地の通信が遮断されていた事で報道も少なく詳細な把握が困難な状況が続いた。その後、徐々に状況が見え、メー審議による理事会承認を経て、救援を開始した。ゼロコロナ政策を実施していたトンガは、この災害後に急速に感染が拡大し、島全体でロックダウンが始まり、海外からの支援者も実質トンガに入国できない状況が続いた。</p> <p>NHK 京田さんを通じてトンガ在住の農業経営者の Minoru Nisi さん(日系 3 世)をご紹介いただいた。彼は、契約農家と連携して農作物を海外に輸出しているが、ニュージーランドへの輸出する予定で植えたばかりスイカなどの農作物が全滅しているとのことか</p>

	<p>ら農業支援ができないかを検討した。</p> <p>その後、Nishiさんと農家たちの協議の結果、被災農家がスイカ栽培で使用するウォーターポンプ2基を提供することが決まった。</p> <p>4/9にコープこうべハート基金から拠出していただいた50万円を送金して、ウォーターポンプ2基を提供することができた。よって本事業は終了した。</p>
--	---

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)事務局体制の充実化
実施日時	2011年4月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>CODE 事務局業務を担ってくれていたた立部知保里さんが、2021年度末に兵庫県立大学大学院博士課程を修了し、アジア防災センターで勤務する事となった。</p> <p>2022年度前期は、細川さん、村井理事の力を借りながら吉椿一人で事務局業務を担っていたが、後期からは、山村太一さん（神戸学院大学4年生）にアルバイトとして、島村優希さん（大阪大学3年生）、植田隆誠さん（関西学院大学3年生）にインターンとして協力していただきながら、ニュースレターの発行やウクライナ避難民支援、イベント運営などを実施してきた。</p>

事業名	2-(2) NGO ことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や一般など
実施内容	2022年度は、事務局の体制上、本事業は実施に至らなかった。

事業名	2-(3) 「〇〇と国際協力」
実施日時	毎月第3木曜日
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	2014年3月より「食と国際協力」を月1回、第3木曜日に開催してきた。食を通して、

	<p>その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらうという主旨で、2019年度までの7年間で計59回を開催し、のべ801名にご参加いただいた。</p> <p>2020年度からは「〇〇と国際協力」という形でリニューアルする事となり、以下の通り年1回のペースで実施した。2022年度は、「若者と国際協力～青年海外協力隊と農業～」と題して若者を中心に開催した。詳細は以下の通り。</p> <p>第1回「映画と国際協力～台湾人のアイデンティティとは?～」</p> <p>日 時:2020年8月20日 18:30～20:00</p> <p>開 催:Zoomによるオンライン</p> <p>語り手:宮本匠さん(CODE 副代表理事)</p> <p>参加者:14名</p> <p>第2回「農業と国際協力～アフガニスタンからの贈り物 9.11をきっかけに始まった農業支援～」で講演(村井理事)</p> <p>日 時:2021年9月9日 18:30～20:30</p> <p>開 催:Zoomによるオンライン</p> <p>語り手:村井雅清(CODE 理事)</p> <p>参加者:23名</p> <p>◎2022年度</p> <p>第3回「〇〇と国際協力」</p> <p>「若者と国際協力～青年海外協力隊と農業」</p> <p>日 時:2022年11月14日(月)19:00～21:00</p> <p>開 催:対面とオンライン</p> <p>語り手 :杉田かなえさん(ジコモファーム代表)</p> <p>森本莉永さん(豊岡市地域おこし協力隊、青年海外協力隊待機者)</p> <p>参加者:13名</p> <p>*2022年度の主な動き</p> <p>5/25 杉田さん、森本さんと打ち合わせ(黒瀬さん、吉椿)</p> <p>11/7 農業と国際協力の打ち合わせ(杉田さん、森本さん、山村さん、黒瀬さん、植田さん、吉椿)</p> <p>11/24 第3回「〇〇と国際協力」</p> <p>「若者と国際協力～青年海外協力隊と農業」を開催(山村さん、黒瀬さん、植田さん、島村さん、村井理事、吉椿)</p>
--	--

事業名	2-(4) CODE 未来基金
実施日時	2014年12月10日～
実施場所	-

<p>受益対象者の 範囲及び予定 人数</p>	<p>災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働くことをめざす若者、若干名。</p>
<p>実施内容</p>	<p>●これまでの経緯</p> <p>2015年にCODEが終了したプロジェクト残額の半分(約1000万円)を充当し、CODE未来基金を立ち上げ、次世代のNGOを担う若者たちを応援してきた。これまでに海外のフィールドワークでは、フィリピン、ネパール、中国の被災地に計12名を派遣した。インターンシップでは、これまでに2名が半年間CODEの業務に有給で従事した。2020年からは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で海外渡航ができなくなったが、この期間を活用し、国内で若者たちが農業を学ぶ「丹波農業フィールドワーク」を2021年度～2022年3月末までに4回実施した。「ムラとマチの奥丹波」という有機農家のグループを賛助会員の山本健一さんに紹介していただき、学生たちはジャガイモの作付けや田植え、稲刈りなどを体験し、夜の懇談会で農業や食の安全、災害、国際協力などをテーマにディスカッションを持つ機会も得ることができた。</p> <p>2022年度は、後期からインターン、アルバイトの学生スタッフ3名が、事務業務やウクライナ避難民支援(MOTTAINAI やさい便や子守りボランティアなど)を担っていただいたことで、学生ボランティアのCODEの活動への参加も増加した。</p> <p>●「CODE未来基金」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旨:NGOを志す若者に財政的な助成をする事で、若者に学ぶ場、働く場、生き方の選択肢などを提示する。 ・助成内容:以下の3部門 <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ・・・将来、CODEなど災害NGOで働きたい若者がCODEで有給インターンとして経験を積む機会を提供する。 2. フィールド研修・・・CODEの支援している被災地でのフィールド研修を若者自身が企画、実施する。 3. NGOセミナー・・・様々な分野の講師を招いて行うセミナーを若者自身が企画、実施する。 ・基金の財源:CODEの過去のプロジェクト費の一部と寄付金を活用する。 CODEが次世代の災害NGOを担う若者と育ち合っていく事を広く社会に呼びかけ、サポーターを募る。 ・寄付について: * 一般寄付 個人一口10,000円、NGO/団体一口30,000円、企業一口50,000円 * 未来基金サポーター 年会費:1,000円 ・運営・選考:CODE事務局が運営を担う。申請案件に関しては、CODEの4名の理事および外部選考委員2名によって審査を行う。理事の交替などにより選考委員の構成が2022年12月度の理事会で議論され、以下の構成に再編された。

選考委員：芹田名誉理事、榛木理事、西海理事、宮本理事、堀之内理事の5名と、外部委員は河崎紀子さん(兵庫県ユニセフ協会事務局長)、中山迅一さん(NPO 法人まなびと代表)から構成される。

●これまでの実績

*フィールドワーク事業

- ・第1号事業：神戸大学生(アイセック神戸大学委員会)による「フィリピンでのフィールド研修」が、2016年3月30日の選考委員会を経て採択された。事業は以下の通り実施された。

日時：2016年8月10日～18日(9日間)

場所：フィリピン・セブ島、バンタヤン島

企画者：宮津隆太(神戸大学2回生)

参加者：神戸大学生5名

(宮津隆太、河村陽菜、佐久間峻平、西本楓、羽田和真)

同行者：上野智彦(CODE スタッフ)

テーマ：「Sign～学生に国際支援の新たな兆しを～」

内容：被災漁村で生活を共にする中で貧困、教育、生計などの課題を考える。

また、現地 NGO へのヒアリングによってフィリピンの漁村の抱える問題を知る。

- ・第2号事業：兵庫県立大学の学生の企画によって CODE の支援するネパールグデル村でフィールド研修が行われた。2016年9月12日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日時：2017年2月22日～3月5日(12日間)

場所：ネパール・ソルクンブ郡グデル村

企画者：立浪雅美(兵庫県立大学4回生)

参加者：兵庫県立大学、神戸学院大学、愛媛大学の3名

(立浪雅美、今中麻里愛、高橋大希)

同行者：吉椿雅道(CODE 事務局長)

テーマ：「Discovery! ～未来への可能性を広げよう～」

内容：辺境のグデル村へ徒歩で向かい、現地の方の声に耳を傾け、暮らしを体験させてもらう。その中から見えてくる生活環境、医療、教育、文化などの課題を共に考える。

- ・第3号事業：神戸大学の学生の企画によって CODE の支援する中国四川省の光明村でフィールド研修が行われた。2017年10月3日の選考委員会の協議によって採択された。詳細は以下の通り。

日時：2018年3月22日～3月30日(8日間)

場所：中国四川省の被災地(光明村など)

	<p>企画者:西本楓(神戸大学2回生) 参加者:神戸大学4名 (西本楓、田口春香、石川睦巳、久保陽香) 同行者:吉椿雅道(CODE事務局長) テーマ:「食による村おこし」 内容:医食同源の故郷である中国で食や食文化を学び、それを活用して被災地での地域おこしを考える。</p> <p>* インターンシップ事業 2016年度のネパールフィールド研修に参加した高橋大希さん(愛媛大学2年生)が未来基金インターンシップ第1号として申請し、2017年8月18日の選考委員会の協議を経て採択された。</p> <p>・第1号 名前:高橋大希さん 所属:愛媛大学教育学部2年生 期間:2017年10月3日~2018年4月1日 業務:SNSを活用した広報や若者のネットワーク作り、イベントの運営 未来基金ニュース「だいき日記」の発信、第4回日中NGOボランティア研修交流事業に参加など。</p> <p>・第2号 名前:立部知保里さん 所属:兵庫県立大学大学院減災・復興政策研究科博士課程 期間:2019年4月1日~9月30日(その後もアルバイトとして雇用) 業務:CODEレターの発行、会員管理、イベント運営、フィリピン・コロナ事業など</p> <p>* セミナー事業 近畿ろうきんの協賛を得て、例年、未来基金の若者たちと以下のようなセミナーを開催してきた。</p> <p>1. 阪神・淡路大震災25年特別企画 「若者の生き方を語る~阪神・淡路大震災25年を前に~」 * 第1回「お金に依存しない自立した生活をめざして」 スピーカー:久保陽香さん(「非電化工房」住み込み弟子) 日時:2019年10月27日 場所:神戸まちづくり会館 参加者:36名 * 第2回「学生のやりたいを見つける」 スピーカー:羽田和真さん(NPO法人The Peace Front) 日時:2019年11月22日 場所:神戸まちづくり会館</p>
--	--

参加者:22名

* 第3回「コミュニティナースが取り組む地域支援」

スピーカー:立浪雅美さん(「園田南」地域包括支援センター)

日時:2019年12月22日

場所:神戸まちづくり会館

参加者:49名

* 第4回「昆虫食で世界の食システムに挑戦する」

スピーカー:西本楓さん(株式会社「BugMo」COO)

日時:2020年1月19日

場所:神戸まちづくり会館

参加者:43名

* 第5回「若者の生き方について考える」

スピーカー:金益見さん(神戸学院大学講師)

日時:2020年2月9日

場所:神戸まちづくり会館

参加者:58名

●2022年度の活動報告

2022年10月より山村太一さん(神戸学院大学4年生)、島村優希さん(大阪大学3年生)、植田隆誠さん(関西学院大学3年生)の3名がアルバイト、インターンとして事務局業務及び、CODE 未来基金の活動全般も担ってもらい、多くの学生ボランティアの参加もあり非常に活気づいた。

(1) ウクライナ避難民支援

「MOTTAINAI やさい便」の活動を通じて、ウクライナー日本交流会や丹波稲刈りなどのイベントにも主体的に運営に関わってもらった。

11月からは、ウクライナ人女性の生きがい創りとして、元CODE理事の村上忠孝さんにご協力いただき、毎週1回、西区での農業体験に学生たちも同行し、共に農業を学んだ

12月からは、ウクライナの母子家庭で子育てや日本語学習などで自由な時間が取れない母親のために「子守りボランティア」を学生中心で始まった。東灘区1世帯、中央区2世帯で週1~2回の活動を行った。これまでに16名の高校生、大学生が参加し、のべ60名のボランティアが3家族の子守りを約40回行ってきた。

(2) 農業フィールドワーク

2020年度から有機農家のグループ「ムラとマチの奥丹波」の方々にご協力いただき、丹波市北奥地区で農業フィールドワークを実施している。2022年度は、5月の田植えと9月の稲刈りに参加させていただいた。稲刈りには、ウクライナの避難者7名が参加し、故郷に想いを馳せる機会になった。

(3) CODE20周年記念事業

CODE が、法人として再スタートをして 20 年を迎えた 2022 年度 3 月に記念事業として、以下を開催した。CODE が 20 年培ってきた経験と知恵に触れた若者たちが次の 20 年に向けて何を伝えるのかを 6 回のプレセッションを経て議論してきた。詳細は以下の通り。

* CODE20 周年記念事業

「20 年先にあなたは何を伝えますか～若者と共に考える」

日時：2023 年 3 月 19 日（日）14：00～16：30

開催：対面（こうべまちづくり会館）とオンライン

参加者：32 名（うち若者 10 名）

* プレセッション

第 1 回 テーマ「足元を見直す」

日 時：2022 年 11 月 25 日（金） 10:00～11:00

参加者：7 人

第 2 回 テーマ「人々との接点」

日 時：2022 年 12 月 12 日（月） 12:00～13:00

参加者：9 人

第 3 回 テーマ「タテ、ヨコ、ナナメの世代を超えたつながり」

日 時：2023 年 1 月 6 日（金） 10:00～12:00

参加者：6 人

第 4 回 テーマ「希望」

日 時：2023 年 1 月 25 日（水） 10:00～12:00

参加者：7 人

第 5 回 テーマ「20 年先に何を伝えるのか」

日 時：2023 年 2 月 15 日（水） 16:00～18:00

参加者：6 人

第 6 回 テーマ「本番のセッションに向けて」

日 時：2023 年 3 月 7 日（火） 16:00～18:00

参加者：9 人

(4) トルコ・シリア地震支援

2023 年 2 月 6 日にトルコ南部で発生した地震の支援として、これまで 2 度スタッフを現地に派遣した。第 1 次派遣では、学生インターンの植田隆誠さんが、第 2 次派遣では島村優希さんが、トルコの被災地に行き、調査やヒアリング、物資配布などの活動に従事した。

CODE として、学生自身が海外の災害現場で学ぶ機会を提供できたことは、学生たちにとって大きな学びと刺激を得る機会となった。

また、トルコの被災地で活動している大学生などの若者たちと学び合う機会を今後継続的に行う。

* 2022年度の主な動き

「* 以下は、1-(1)アフガニスタン救援、1-(2)四川省地震救援、1-(3)ウクライナ・ロシア支援、1-(4)トルコ・シリア地震支援などにも再掲」

5/14-15 丹波農業フィールドワーク(山内さん、立部さん、杉田さん、森本さん、吉椿)

5/16 「MOTTAINA やさい便」ウクライナ、アフガニスタンの避難者へ配達
(山村さん、村井理事、吉椿)

5/19 「MOTTAINAI やさい便」クラウドファンディング会議を開催
(室崎代表、宮本副代表、徳山理事、岸本理事、村井理事、岸本理事、山村さん、黒瀬さん、原田さん、立部さん、頼政さん、吉椿)

5/22 アフガニスタンの避難者 S さんを囲む食事会を開催
(村井理事、山村さん、山内さん、立部さん、吉椿)

6/2 「MOTTAINA やさい便」ウクライナの避難者へ配達(村井理事、山村さん、吉椿)

6/9 ウクライナの避難者へヒアリング(通訳 K さん、村井理事、山村さん、吉椿)

7/7 アフガニスタン退避者誕生日会を開催(村井理事、立部さん、高野さん、山村さん、齊藤さん、吉椿)

7/14 ウクライナ避難者(須磨区)引っ越し(村井理事、高野さん、山村さん、吉椿)

7/30 ウクライナ避難者(中央区)引っ越し(村井理事、草地さん、島村さん、細川、吉椿)

8/7 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第 1 回を開催
(村井理事、立部さん、山村さん、山口さん、黒瀬さん、高野さん、吉椿)

8/27 ウクライナ日本交流会の準備(山村さん、吉椿)

8/28 ウクライナ日本交流会を開催(村井理事、山村さん、山口さん、高野さん、島村さん、佐野さん、吉椿)

9/6 ウクライナ避難者(須磨区)引っ越し(村井理事、山村さん、山口さん、吉椿)

9/16 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第 2 回を開催
(村井理事、黒瀬さん、立部さん、吉椿)

9/24 丹波農業フィールドワーク(ウクライナ支援)を開催
(ウクライナ避難者 7 名、島村さん、立部さん、吉椿)

10/14 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ
(大阪大学・陶さん、楊さん、山田さん、佐々田さん、山村さん、島村さん、吉椿)

10/16 関西 NGO 協議会「オンラインスタディツアー(中国)」を開催
(山村さん、島村さん、植田さん、吉椿)

10/28 立命館宇治高校生と未来基金の交流&ウクライナ避難者報告
(島村さん、植田さん、山村さん、黒瀬さん、吉椿)

10/29 立命館宇治高校生たちとウクライナ避難者支援コラボ
(山村さん、植田さん、吉椿)

11/1 CODE レター、HP 更新の打ち合わせ(立部さん、島村さん、吉椿)

11/7 長崎大学院生、原田梨央さんヒアリング(吉椿)
農業と国際協力の打ち合わせ(杉田さん、森本さん、山村さん、黒瀬さん、植田さん、吉椿)

	<p>11/10 追手門学院大学・岩本さんヒアリング(柳瀬さん、吉椿)</p> <p>11/11 ウクライナ農業ボランティア(山村さん)</p> <p>11/12 ウクライナ避難者食事会に参加(チョホンリさん、高尾さん、山村さん、 植田さん、吉椿)</p> <p>11/14 農業と国際協力を開催(杉田さん、森本さん)</p> <p>11/18 舞子高校で講義(山村さん、吉椿) ウクライナ農業ボランティア、植田さん)</p> <p>11/25 CODE20 周年第1回プレセッションを開催 (山村さん、植田さん、島村さん、柳瀬さん、佐野さん、村井理事、吉椿)</p> <p>11/28-12/1 ウクライナスケッチ展開催(チョホンリさん、植田さん、島村さん、 山村さん、吉椿)</p> <p>11/28 ウクライナ支援のためのザクロ収穫(植田さん、村井理事)</p> <p>12/7 追手門学院大学・岩本さんヒアリング(柳瀬さん、吉椿)</p> <p>12/9 ウクライナ農業ボランティア(島村さん)</p> <p>12/11 ウクライナ子守りボランティア(島村)</p> <p>12/12 CODE20 周年第2回プレセッションを開催(山村さん、植田さん、島村さん、 柳瀬さん、佐野さん、黒瀬さん、山口さん、村井理事、吉椿)</p> <p>12/16 ウクライナ農業ボランティア(島村さん)</p> <p>12/18 ワンワールドフェスティバル for Youth にブース出展(植田さん、島村さん、 山村さん、吉椿) ウクライナ子守りボランティア(植田昌菜さん、植田隆誠さん)</p> <p>12/19 ウクライナ子守りボランティア(島村さん、リアさん)</p> <p>12/20 ウクライナ子守りボランティア(山村さん)</p> <p>12/21 ウクライナ子守りボランティア(植田さん)</p> <p>12/22 ウクライナ子守りボランティア(那須公香さん、植田さん)</p> <p>12/23 ウクライナ子守りボランティア(山村さん)</p> <p>12/24 ウクライナ農業ボランティア(植田さん)</p> <p>12/25 ウクライナ子守りボランティア(島村さん、リアさん)</p> <p>12/29 CODE 未来基金学生スタッフミーティング(島村さん、植田さん、山村さん、吉椿)</p> <p>2023/1/3 ウクライナ農業ボランティア(山村さん)</p> <p>1/5 ウクライナ子守ボランティア(島村さん)</p> <p>1/6 CODE20 周年第3回プレセッションを開催(島村さん、山村さん、植田さん、 山口さん、村井理事、吉椿)</p> <p>1/8 ウクライナ子守ボランティア(山村さん)</p> <p>1/9 ウクライナ子守りボランティア(植田さん、有田さん、吉椿)</p> <p>1/15 ウクライナ子守りボランティア(島村さん、吉田さん)</p> <p>1/16 関西国際大学セーフティマネジメント教育研究センター「国際防災協力」で講義 (吉椿、島村さん、植田さん) ウクライナ子守りボランティア(島村さん、吉田さん)</p> <p>1/21 ウクライナ農業ボランティア(山村さん)</p>
--	---

	<p>1/22 ウクライナ子守りボランティア(植田さん、中澤さん、濱田さん)</p> <p>1/23 ウクライナ子守りボランティア(山村さん、有田さん)</p> <p>1/29 ウクライナ子守りボランティア(島村さん、植田さん、樋上さん)</p> <p>1/30 ウクライナ子守りボランティア(山村さん、那須さん)</p> <p>1/25 CODE20周年第4回プレセッションを開催(島村さん、山村さん、植田さん、山内さん、山口さん、村井理事、吉椿)</p> <p>2/2 ウクライナ子守りボランティア(植田さん、高島さん、施さん、樋上さん)</p> <p>2/5 ウクライナ子守りボランティア(島村さん、樋上さん)</p> <p>2/6 関西学院大学災害ボランティアサークル「つむぎ」で講演(植田さん、吉椿)</p> <p>2/7 ウクライナ子守りボランティア(植田さん、樋上さん)</p> <p>2/10-18 トルコ・シリア地震第1次派遣(植田さん、吉椿)</p> <p>2/10 葺合高校で講義(島村さん)</p> <p>2/11 ウクライナ農業ボランティア(山村さん)</p> <p>2/13 ウクライナ子守りボランティア(島村さん)</p> <p>2/14 ウクライナ子守りボランティア(島村さん、施さん、高島さん)</p> <p>2/15 CODE20周年第5回プレセッションを開催(村井理事、山村さん、黒瀬さん、柳瀬さん、佐野さん、島村さん)</p> <p>2/16 葺合高校で講義(山村さん)</p> <p>2/18 ウクライナ農業ボランティア(山村さん)</p> <p>2/19 ウクライナ子守りボランティア(樋上さん、山根さん)</p> <p>2/20 ウクライナ・子守りボランティア(有田さん)</p> <p>2/26 トルコ・シリア地震支援派遣報告会 (植田さん、山村さん、島村さん、冬頭理事、村井理事、吉椿) ウクライナ子守りボランティア(樋上さん)</p> <p>2/28 NGO-JICA協議会 in 関西(JICA 関西)ユースセッションに参加 (島村さん、植田さん、山村さん、吉椿) ウクライナ子守りボランティア(樋上さん、施さん、高島さん)</p> <p>3/1 兵庫県知事面談(齊藤知事、植田さん、吉椿)</p> <p>3/4 ウクライナ農業ボランティア(リリアさん、村上さん、植田さん、樋上さん)</p> <p>3/5 ウクライナ子守りボランティア(樋上さん、島村さん)</p> <p>3/6 ウクライナ子守りボランティア (有田さん)</p> <p>3/7 CODE20周年第6回プレセッションを開催(植田さん、島村さん、山村さん、山口さん、柳瀬さん、村井理事、吉椿) ウクライナ子守りボランティア (樋上さん、施さん、高島さん)</p> <p>3/12 トルコ NGO ACEV のハサンとミーティング (植田さん、山村さん、島村さん、村井理事、吉椿) ウクライナ子守りボランティア(樋上さん)</p> <p>3/17 日本財団ボランティアセンターで「トルコ・シリア地震」報告(植田さん、吉椿)</p> <p>3/18 寺子屋特別編「被災地を知る」(講師:岩城あすかさん)を開催 (山村さん、島村さん、植田さん、村井理事、細川、吉椿)</p>
--	--

	<p>3/19 CODE20 周年記念事業「20年先にあなたは何を伝えますか？」を開催 (室崎代表、芹田名誉理事、西海理事、冬頭理事、西田理事、山口理事、 村井理事、植田さん、山村さん、島村さん、細川、吉椿) ウクライナ子守ボランティア(樋上さん)</p> <p>3/21-4/1 トルコ・シリア地震支援第2次派遣(島村優希、吉椿)</p> <p>3/21 Peppy's English 主催のウクライナ避難民交流会に参加(植田さん) ウクライナ子守ボランティア(樋上さん)</p> <p>3/22 コープこうべハート基金にて、トルコ・シリア地震報告(植田さん、村井理事) ウクライナ子守ボランティア(高島さん、施さん)</p> <p>3/23 ウクライナ子守ボランティア(高島さん、施さん)</p> <p>3/24 近畿ろうきん、関西 NGO 協議会「トルコ・シリア地震報告会」でオンライン報告 (島村さん、植田さん、山村さん、宮本理事、吉椿)</p> <p>3/26 ウクライナ子守ボランティア(樋上さん)</p>
--	--

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	<p>「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクトをよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトなどで発信してきた。</p> <p>2022年度は、大学生インターンたちが、HPの英語への翻訳をしてくれた。</p>

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(社会防災特別講義Ⅱ)
実施日時	9月から1月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の 範囲及び予定 人数	現代社会学部の学生 95名
実施内容	<p>①「現代社会学部」の後期授業および講師派遣</p> <p>村井理事が2007年から担っていた本講義を2020年度から吉椿が担っており、2022年度も以下の内容と講師陣とオムニバスで全15コマ実施した。講師は、他に斉藤容子さん、頼政良太さんにも担っていただいている。2022年度の受講生は95名。</p>

	<p>《日程と内容》</p> <p>9/20(火) 第1回 ガイダンス(吉椿)</p> <p>9/27(火) 第2回 CODE 海外災害援助市民センターについて(吉椿)</p> <p>10/4(火) 第3回 異文化理解と援助(吉椿)</p> <p>10/11(火) 第4回 日本の災害復興支援活動(頼政さん)</p> <p>10/18(火) 第5回 寄り添いとつながり(吉椿)</p> <p>10/25(火) 第6回 海外の復興制度(齊藤さん)</p> <p>11/1(火) 第7回 災害フィールドワーク(吉椿)</p> <p>11/8(火) 第8回 災害とSDGs(吉椿)</p> <p>11/15(火) 第9回 災害とジェンダー(齊藤さん)</p> <p>11/22(火) 第10回 平時の地域防災(頼政さん)</p> <p>11/29(火) 第11回 災害と貧困(吉椿)</p> <p>12/6(火) 第12回 援助の届きがたい被災地支援の方策(吉椿)</p> <p>12/13(火) 第13回 海外のコミュニティ防災(齊藤さん)</p> <p>12/20(火) 第14回 国際協力と若者(吉椿)</p> <p>1/17(火) 第15回 まとめ～これまでの講義を振り返って(吉椿)</p> <p>その他、社会貢献学入門の講義(2回)の講義(3大学履修者22名)も行った。</p> <p>7/2(土) 第14回 NGOによる国際協力/CODEの行う社会貢献</p> <p>7/9(土) 第15回 NGOによる国際協力/海外での復興支援活動</p>
--	---

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 親和女子大学(国際ボランティア論)
実施日時	4月から7月まで、毎週月曜日第2限
実施場所	親和女子大学キャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の 範囲及び予定 人数	文学部国際文化学科、発達教育学部児童教育学科・心理学科、教育学部スポーツ教育学科の52名
実施内容	<p>2020年度前期(月曜2限、全15回)より「国際ボランティア論」の講義((担当教員:梶山)を行うことになった。講師は、坂西卓郎さん(PHD 協会)(5)、齊藤容子さん(関西学院大学)(4)、吉椿(CODE)(5)の三者で実施した。</p> <p>《内容》</p> <p>4/11(月) 第1回 ガイダンス・授業の進め方(梶山)</p> <p>4/18(月) 第2回 国際協力概論(坂西さん)</p> <p>4/25(月) 第3回 ボランティアとは?(吉椿)</p> <p>5/9(月) 第4回 世界の難民問題(坂西さん)</p> <p>5/16(月) 第5回 日本の難民問題(坂西さん)</p> <p>5/23(月) 第6回 国際協力と多文化共生①(坂西さん)</p>

5/30(月)	第7回	国際協力と多文化共生②(坂西さん)
6/6(月)	第8回	防災と国際協力(斉藤さん)
6/13(月)	第9回	緊急支援、復興支援(斉藤さん)
6/20(月)	第10回	ジェンダー視点から見る途上国災害(斉藤さん)
6/27(月)	第11回	ボランティアから専門家へ(斉藤さん)
7/4(月)	第12回	NGOとは?(吉椿)
7/11(月)	第13回	国際協力と若者(吉椿)
7/25(月)	第14回	SDGsと災害(吉椿)
8/1(月)	第15回	異文化理解と援助(吉椿)

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4月から7月まで、毎週火曜日第1限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の 範囲及び予定 人数	現代社会学部の学生 16名
実施内容	<p>2020年度よりCODEが受託した講義で、前期(火曜1限、全15回)の「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が行った。ゲストスピーカーとして、斉藤容子さん、頼政良太さんにも講義を担っていただいた。</p> <p>《内容》</p> <p>4/12(火) 第1回 ガイダンス(吉椿)</p> <p>4/19(火) 第2回 災害ボランティアについて(吉椿)</p> <p>4/26(火) 第3回 災害ボランティアセンターについて(頼政さん)</p> <p>5/10(火) 第4回 避難所運営とボランティア(頼政さん)</p> <p>5/17(火) 第5回 避難所ワーク「HUG」(斉藤さん)</p> <p>5/24(火) 第6回 復興支援とボランティア(頼政さん)</p> <p>5/31(火) 第7回 足湯ボランティアとは(吉椿)</p> <p>6/7(火) 第8回 災害ボランティアのネットワーク(頼政さん)</p> <p>6/14(火) 第9回 ボランティアとフィールドワーク(吉椿)</p> <p>6/21(火) 第10回 海外のボランティア①フィリピン(吉椿)</p> <p>6/28(火) 第11回 海外のボランティア②中国(吉椿)</p> <p>7/5(火) 第12回 海外のボランティア③イタリア(斉藤さん)</p> <p>7/12(火) 第13回 ボランティアと若者・働き方(吉椿)</p> <p>7/19(火) 第14回 災害とジェンダー(斉藤さん)</p> <p>7/22(金) 第15回 NGOとボランティア(吉椿)</p>

事業名	4-(5)《関係機関からの受託事業》関西NGO協議会
-----	----------------------------

実施日時	随時
実施場所	未定
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
実施内容	<p>例年通り、以下の事業などに講師派遣をした。</p> <p>①講師派遣</p> <p>2022/5/11 関西 NGO 協議会総会「ウクライナ危機における支援」で講義(吉椿)</p> <p>2023/1/11 龍谷大学国際 NGO 論「災害支援の現場から考える市民社会」 で講義(吉椿)</p>

事業名	4-(6) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	未定
	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>CODE は団体理事として、吉椿が 2017 年度から理事会に出席している。</p> <p>なお、吉椿は、2019 年度から常任理事、2020 年度からは NGO-JICA 協議会コーディネーターを担ったが、2021 年度でコーディネーターを辞任し、自団体業務に選任することとした。また、2018 年から KANSAI-SDGs 市民アジェンダの座長としても、SDGsを通じて関西の多分野の NGO との関係性を深めてきた。</p> <p>* 総会・理事会への出席</p> <p>4/4 常任理事会に出席(吉椿)</p> <p>5/6 常任理事会に出席(吉椿)</p> <p>5/21 2022 年度定期総会に出席(吉椿)</p> <p>6/24 常任理事会に出席(吉椿)</p> <p>7/28 第 1 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>9/29 第 2 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>11/24 第 3 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>2/2 第 4 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>4/27 第 5 回理事会に出席(吉椿)</p> <p>* NGO-JICA 協議会</p> <p>2020 年度より吉椿が KNC としてコーディネーターを担っていきしたが、自団体の業務に専念するために 2021 年度末で辞任した。</p> <p>・4/5 NGO-JICA 協議会 NGO の集いに出席(吉椿)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・9/21 NGO-JICA 協議会に出席(吉椿) ・3/14 NGO-JICA 協議会に出席(吉椿) <p>* 関西 NGO-JICA 協議会</p> <p>2022年度からは、栗田 KNC 事務局長と共に JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の業務を担っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/14 JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の打ち合わせ(吉椿) ・12/1 JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の打ち合わせ(吉椿) <p>○第3回関西 NGO-JICA 協議会</p> <p>関西地域の NGO や JICA 関西にかかわる大学生インターンなどのユース世代を中心に今後の国際協力への参加と育成について議論が交わされた。</p> <p>日時:2023年2月28日 14:00-18:00</p> <p>場所:JICA 関西</p> <p>参加者:NGO16人、JICA7人、ユース11人</p> <p style="padding-left: 2em;">* CODE から山村さん、島村さん、植田さん、吉椿が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/15 NGO-JICA 協議会 in 関西(JICA 関西)ユースセッション振り返りに出席(吉椿) <p>* KANSAI-SDGs市民アジェンダ</p> <p>2018年から関西地域の NGO たちと SDGs推進のために市民社会に声を聴く分科会を開催してきた。吉椿は、国際分科会の座長を務めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/30 KANSAI-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席(吉椿) <p style="padding-left: 2em;">ポスト SDGs 勉強会に参加(吉椿)</p> <p>12/12 KANSAI-SDGs 市民アジェンダ運営委員会に出席(吉椿)</p> <p>*トルコ・シリア地震「被災地はいま」報告会</p> <p>関西 NGO 協議会と近畿ろうきんとの共催でトルコに派遣した CODE スタッフとオンラインでつないで報告が行われた。</p> <p>日時:2023年3月24日(金)18:00~20:00(トルコ時間 12:00~14:00)</p> <p>場所:近畿ろうきん肥後橋ビル 12F メインホール</p> <p>報告者:トルコより:島村優希(CODE 学生スタッフ)、吉椿雅道(CODE 事務局長)</p> <p style="padding-left: 2em;">会場から:植田隆誠(CODE 学生スタッフ)、山村太一(CODE 学生スタッフ)</p> <p>参加者:68名オンライン(58名、対面10名)</p> <p>主催:CODE 海外災害援助市民センター</p> <p>共催:近畿ろうきん、関西 NGO 協議会</p> <p>* その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 7/13 関西 NGO 協議会「オンラインスタディツアー」打ち合わせ(吉椿) 7/26 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」打ち合わせ (近畿ろうきん、KNC、吉椿) 8/7 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第1回を開催(近畿ろうきん、KNC、
--	--

	<p>村井理事、立部さん、山村さん、山口さん、黒瀬さん、高野さん、吉椿)</p> <p>8/21 サマーSDGs for Youth でブース出展 (高野さん、山村さん、黒瀬さん、島村さん、吉椿)</p> <p>9/15 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」打ち合わせ (渡邊さん、近畿ろうきん、KNC、吉椿)</p> <p>9/16 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第2回を開催 (近畿ろうきん、KNC、村井理事、黒瀬さん、立部さん、吉椿)</p> <p>9/26 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ (渥美教授、寺本さん、吉椿)</p> <p>10/5 「オンラインスタディツアー(中国)」の通訳打ち合わせ(時さん、吉椿)</p> <p>10/11 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ (KNC 富永さん、仲井さん、吉椿)</p> <p>10/12 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ (中国・張国遠さん、王僚さん、時さん、吉椿)</p> <p>10/14 「オンラインスタディツアー(中国)」の打ち合わせ (大阪大学・陶さん、楊さん、山田さん、佐々田さん、山村さん、島村さん、吉椿)</p> <p>10/16 関西 NGO 協議会「オンラインスタディツアー(中国)」を開催 (山村さん、島村さん、植田さん、吉椿)</p> <p>11/26 全国ネットワーク NGO の集いに出席(吉椿)</p> <p>12/14 関西 NGO 協議会理事選挙タスクチーム会議に出席(吉椿)</p> <p>12/18 ワンワールドフェスティバル for Youth にブース出展(植田さん、島村さん、山村さん、吉椿)</p> <p>ワンワールドフェスティバル for Youth「高校生ユースアクション報告会」で コメンテーター(吉椿)</p> <p>1/11 龍谷大学「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</p> <p>1/26 開発協力大綱 NGO 勉強会(関西 NGO 協議会)に参加(吉椿)</p> <p>2/5 ワンワールドフェスティバル「開発協力大綱改定に関する意見交換会」 に出席(吉椿)</p> <p>2/21 近畿ろうきん、KNCトルコ・シリア地震報告会打ち合わせ(吉椿)</p> <p>3/24 近畿ろうきん、関西 NGO 協議会「トルコ・シリア地震報告会」でオンライン報告 (KNC、近畿ろうきん、島村さん、植田さん、山村さん、宮本理事、吉椿)</p> <p>② コープこうべとの連携</p> <p>例年通り、コープこうべが実施している地区の勉強会や報告会への講師派遣を継続した。また、2023年2月に発生したトルコ・シリア地震対しては、ハート基金から初動調査費用として、100万円拠出していただいた。</p> <p>* 2022年度の主な動き</p> <p>5/10 コープ深江組合員研修「アフガニスタンから20年」で講演(村井理事)</p> <p style="text-align: right;">*1-(1)アフガニスタン救援に再掲</p>
--	--

- 6/15 コープこうべ第102期通常総代会に出席(吉椿)
- 7/9 「オーガニックのつどい」(コープこうべ)でウクライナ募金の受け取り(吉椿)
- 7/12 コープ須磨組合員研修「アフガニスタンから20年」で講演(村井理事)
*1-(1)アフガニスタン救援に再掲
- 9/24 コープこうべフードドライブ譲渡会に出席(草地とし子さん、村井理事)
- 11/11 コープ横尾「アフガニスタンの今」で講演(村井理事)
*1-(1)アフガニスタン救援に再掲
- 1/20 コープこうべ総代研修会に出席(吉椿)
- 3/13 コープこうべ冬頭さん・藤原さんとトルコ・シリア地震支援の打ち合わせ
(村井理事、吉椿)
- 3/22 コープこうべハート基金でトルコ・シリア地震報告(植田さん、村井理事)
*1-(4)トルコ・シリア地震支援に再掲

③ 近畿ろうきんとの連携

2018年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」(預金の金利の一部を社会貢献に使うしくみ)の寄付先団体として選出され、約20万円の寄付をいただいている。2019年度、CODEは近畿ろうきんに預金口座を開設した。

2022年度の笑顔プラスの寄付は214,604円となった。

また、2019年からは、毎年、近畿ろうきんから協賛をいただき、以下のセミナーを開催してきた。

2019年度「若者生き方を語る～阪神・淡路大震災から25年を前に～」

2020年度「コロナとこれからの市民社会に向けて～SDGs・若者・災害/気候変動」

2021年度「若者と難民について考える」

2022年度「若者と難民について考える第2弾」を2回シリーズで開催した。

詳細は以下の通り。

◎CODE 寺子屋セミナー2022【若者と難民について考える】

*5-(1)CODE 寺子屋に再掲

「今、世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか

～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本～」

日 時:2022年8月7日(第1回)、9月16日(第2回)

場 所:対面(第1回)、オンライン(第2回)

第1回「海外からの難民、避難民に対して市民・NGOは何ができるのか」

日 時:2022年8月7日 10:00～12:00

開 催:神戸まちづくり会館(対面とオンラインも併用)

講 師:折居徳正さん(パスウェイ・ズジャパン代表理事)

田中恵子さん(RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク 共同代表)

参加者:62名

第2回「日本における難民の保護は適正か

～ウクライナ・ミャンマー等から見える日本の保護のあり方」

日時:2022年9月16日(金)18:00～20:00

開催:オンライン

講師:渡邊彰悟さん(全国難民弁護団連絡会議 弁護士)

参加者:37名

◎トルコ・シリア地震「被災地はいま」報告会 *1-(4) トルコ・シリア地震支援に再掲
近畿ろうきんと関西 NGO 協議会の共催でトルコに派遣した CODE スタッフと
オンラインでつないで報告が行われた。

日時:2023年3月24日(金)18:00～20:00(トルコ時間 12:00～14:00)

場所:近畿ろうきん肥後橋ビル 12F メインホール

報告者:トルコより:島村優希(CODE 学生スタッフ)、吉椿雅道(CODE 事務局長)

会場より:植田隆誠(CODE 学生スタッフ)、山村太一(CODE 学生スタッフ)

参加者:68名オンライン(58名、対面10名)

* 2022年度の主な動き

5/12 近畿ろうきんと難民セミナーの打ち合わせ(吉椿)

5/25 近畿ろうきん、ラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO!」に出演(吉椿)

6/17 近畿ろうきん笑顔プラス寄付先団体合同報告会に出席(吉椿)

7/26 CODE 寺子屋 2022「若者と難民について考える」打ち合わせ

(近畿ろうきん、KNC、吉椿)

8/7 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第1回を開催(近畿ろうきん、KNC、
村井理事、立部さん、山村さん、山口さん、黒瀬さん、高野さん、吉椿)

9/14 近畿ろうきん職員研修で講演(吉椿)

9/15 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」打ち合わせ

(渡邊さん、近畿ろうきん、KNC、吉椿)

9/16 CODE 寺子屋「若者と難民について考える」第2回を開催

(近畿ろうきん、KNC、村井理事、黒瀬さん、立部さん、吉椿)

2/21 近畿ろうきん、KNC「トルコ・シリア地震報告会」打ち合わせ(吉椿)

3/16 近畿ろうきん、KNC「トルコ・シリア地震報告会」打ち合わせ(吉椿)

3/24 近畿ろうきん、関西 NGO 協議会「トルコ・シリア地震報告会」でオンライン報告
(近畿ろうきん、KNC、島村さん、植田さん、山村さん、宮本理事、吉椿)

④ 若者の団体、教育機関とのネットワーク

2017年度から未来基金事業を中心に若者のネットワークとのつながりを作ってきた。
「アイセック神戸大学委員会」や「ワカモノデカラプロジェクト」、「神戸大学 PEPUP」、
「まなびと」や「神戸大学救援隊」、「関西学院大学ニューマンサービスセンター」、「大
学コンソーシアムひょうご神戸」などとの関係を深めてきた。「アイセック神戸大学委員
会」とは、海外インターン送り出し事業局の面談委員を吉椿が担ってきたことや未来基

金四川フィールド研修ではアイセックのメンバーが中国四川省で企画を実施した。
2022年度は、例年通り舞子高校、葺合高校、神港橋高校、神戸工科高校の講義に加え、灘中学や神戸龍谷高校、桃山学院高校、ワンフェスユース、CODE 寺子屋「若者と難民について考える」や「オンラインスタディツアー」で共に学び合い、トルコ・シリア地震支援では、「舞子高校」、「葺合高校」、「1.17 希望の架け橋」や「ワカモノヂカラ」などの高校生や大学生たちと協働する機会もあった。

* 以下、1-(4)トルコ・シリア地震支援に再掲

2/19 トルコ・シリア地震街頭募金に参加

(全国災害ボランティア支援機構、舞子高校、ワカモノヂカラ、吉椿)

トルコ・シリア地震街頭募金に参加(1.17 希望の架け橋、吉椿)

2/23 トルコ・シリア地震街頭募金に参加(1.17 希望の架け橋、植田)

3/11 トルコ・シリア地震街頭募金に参加(1.17 希望の架け橋、吉椿)

* 教育機関に関する主な動き:(神戸学院大学、親和女子大学以外)

4/28 桃山学院高校課外学習で講義(吉椿)

5/20 関西学院大学復興学 A で講義(吉椿)

6/25 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)

6/29 大阪大学人間科学部「共生の理論と実践」で講義(吉椿)

8/3 ワンネススクールで講演(吉椿)

10/18 灘中学「公民科授業」で講義(吉椿)

10/24 神戸工科高校で講義(立部さん)

10/25 神戸工科高校で講義(立部さん)

10/26 神戸工科高校で講義(立部さん)

10/27 神戸工科高校で講義(立部さん)

10/28 神戸工科高校で講義(立部さん)

11/14 神港橋高校タウンミーティングで講義(吉椿)

11/18 舞子高校環境防災科「災害と人間」で講義(吉椿)

12/7 追手門学院大学・岩本さんヒアリング(柳瀬さん、吉椿)

12/13 神戸大学大学院国際人間科学部「地域復興政策論」で講義(吉椿)

12/19 灘中学生の研究「途上国での災害支援」のヒアリング(吉椿)

12/23 舞子高校生インタビュー(吉椿)

1/11 神戸龍谷中学高校も追悼礼拝で講演(吉椿)

龍谷大学「国際 NGO 論」で講義(吉椿)

1/16 関西国際大学セーフティマネジメント教育研究センター

「国際防災協力」で講義(吉椿)

2/6 関西学院大学災害ボランティアサークル「つむぎ」で講演(吉椿)

2/7 灘中学公民科授業全体発表会に出席(吉椿)

関西国際大学アジア提携校の学生に講義(吉椿)

2/9 金沢大学「国際協力論」で講義(吉椿)

2/10 葺合高校で講義(島村さん)

	<p>2/16 葺合高校で講義(山村さん)</p> <p>3/6 藍那小学校「トルコ・シリア地震」の講演(吉椿)</p> <p>3/16 愛媛大学法文学部社会科学研究会で「トルコ・シリア地震」報告(吉椿)</p> <p>その他の団体との連携</p> <p>「*以下は、1-(2)四川省地震救援、1-(3)ウクライナ・ロシア支援、1-(4)トルコ・シリア地震などにも再掲」</p> <p>4/7 日本YMCA 同盟ウクライナ報告会に参加(吉椿)</p> <p>4/8 JPF ウクライナ支援報告会に参加(吉椿)</p> <p>4/28 大学コンソーシアム神戸「教えて岡部先生、一緒に考える。学生・留学生のためのウクライナ・ロシア情勢」を聴講(村井理事、吉椿)</p> <p>5/10 大阪ワイズメンクラブ定例会で講演(吉椿)</p> <p>5/12 ヒューライツ大阪「ウクライナ侵攻-現地取材したジャーナリストに聴く」を聴講(村井理事、吉椿)</p> <p>8/26 JPF ウクライナ支援報告会に参加(吉椿)</p> <p>9/4 JANIC 主催『アフガニスタンからの退避者の実情にせまる』オンライン視聴(村井理事)</p> <p>11/2 兵庫県人権啓発協会の取材(吉椿)</p> <p>11/16 JPF ウクライナ人道支援セミナーに参加(吉椿)</p> <p>12/10 SVA 設立記念オンラインセミナーに参加(吉椿)</p> <p>1/12 相生市金ヶ崎学園大学教養講座で講演(吉椿)</p> <p>1/19 福島双葉町スケッチ展で講演(吉椿、植田さん)</p> <p>2/28 関西 NGO-JICA 協議会(JICA 関西)ユースセッションに参加(島村さん、植田さん、山村さん、吉椿)</p> <p>1/30 名古屋ウクライナ避難者支援のための情報共有会議で講演(吉椿)</p> <p>1/31 コロナ禍と日中交流に関するインタビュー(駒澤大学李妍焱教授、吉椿)</p> <p>3/1 兵庫県知事面談(齊藤知事、植田さん、吉椿)</p> <p>日本財団トルコ・シリア地震報告会打ち合わせ(吉椿)</p> <p>3/6 国際ソロプチミスト神戸東の助成金の打ち合わせ(村井理事、吉椿)</p> <p>人と防災未来センター、後藤副センター長来所(吉椿)</p> <p>3/7 FM わいわい「トルコ・シリア地震」収録(吉椿)</p> <p>3/9 DRA 人と防災未来センター トルコ・シリア地震緊急会議で報告(吉椿)</p> <p>3/17 日本財団ボランティアセンターで「トルコ・シリア地震」報告(植田さん、吉椿)</p> <p>3/21 Peppy's English 主催のウクライナ避難民交流会に参加(植田さん)</p>
--	--

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の	未定

範囲及び予定 人数	
実施内容	<p>① フィリピン 2013年11月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動するNGOネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築き、その後もフィリピンでの災害の際はコンタクトを取っている。2020年からはコロナ禍での生活困窮者を支援する女性たちの動きをサポートし、2021年度は庭野平和財団の助成金を活用してコロナ禍の女性の活動を支援した。</p> <p>② 中国 2008年の四川大地震以降、つながっている四川のNGO「NGO 備災センター(上厚公益サービスセンター)」、「四川尚明公益発展研究センター」、「壹基金」などとの連携を、2015年から実施している日中NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきた。2020年度は、コロナ禍において、国際アライアンス「IACCR」を先述のNGOと立ち上げ、世界14の国と地域のメンバーと情報を共有してきた。</p> <p>③ ネパール 2015年4月に発生したネパール地震の救援活動を通じて Gudel Sherpa Community や同組織のシニアアドバイザーであるラクパ・シェルパさんと出会った。2016年度からは、耐震住宅再建プロジェクトを行ったグデル村のシャーレ地区の「シェルパ村落開発改善委員会」や「夢広の会パタンジェ」との関係を構築してきた。</p> <p>④ インドネシア 2006年のインドネシア・ジャワ中部地震以降、連携しているエコ・プラウトさん(デュタ・ワチャナキリスト教大学教授)や彼の建築家のネットワーク(インドネシア建築協会など)を通じて、2010年の青海省地震や2018年のロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スダダ海峡火山津波の支援も展開してきた。エコさんも新型コロナウイルス感染症対応の国際アライアンス「IACCR」のメンバーになっている。</p> <p>⑤ トルコ 2023年2月に発生したトルコ・シリア地震で協働しているNGO、ACEV。1999年のマルマラ海地震の際に通訳をいただいた岩城あすかさんの義弟であるハサンさんがACEVのコーディネーターを務めている。また、ガジアンテプ市内のNGOのメハメットさん(Active Participants Association メンバー)も女性や子ども支援のNGOのネットワークを持っている。</p>

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時

実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>CODE 寺子屋は、これまで主に CODE の理事を講師として開催してきたが、2020 年度からは、近畿ろうきんの協賛を得て、外部の NGO の方などのを講師として開催してきた。</p> <p>2022 年度は、アフガニスタンの政変、ロシア軍によるウクライナ侵攻などが起きた事から 2021 年度に引き続き CODE 寺子屋セミナー2022「若者と難民について考える」を実施した。</p> <p>詳細は以下の通り。</p> <p style="text-align: center;">◎CODE 寺子屋セミナー2022【若者と難民について考える】</p> <p style="text-align: right;">* 1-(1)にアフガニスタン救援に再掲</p> <p style="text-align: center;">「今、世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか ～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本～」</p> <p style="text-align: center;">日 時:2022 年 8 月 7 日(第 1 回)、9 月 16 日(第 2 回)</p> <p style="text-align: center;">場 所:対面(第 1 回)、オンライン(第 2 回)</p> <p>第 1 回「海外からの難民、避難民に対して市民・NGO は何ができるのか」</p> <p style="text-align: center;">日 時:2022 年 8 月 7 日 10:00～12:00</p> <p style="text-align: center;">開 催:神戸まちづくり会館 (対面とオンラインも併用)</p> <p style="text-align: center;">講 師:折居徳正さん(パスウェイ・ズジャパン代表理事)</p> <p style="text-align: center;">田中恵子さん(RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク 共同代表)</p> <p style="text-align: center;">参加者:62 名</p> <p>第 2 回「日本における難民の保護は適正か ～ウクライナ・ミャンマー等から見える日本の保護のあり方」</p> <p style="text-align: center;">日 時:2022 年 9 月 16 日(金)18:00～20:00</p> <p style="text-align: center;">開 催:オンライン</p> <p style="text-align: center;">講 師:渡邊彰悟さん(全国難民弁護士連絡会議 弁護士)</p> <p style="text-align: center;">参加者:37 名</p> <p style="text-align: center;">◎CODE 寺子屋特別編「被災地を知る～トルコ・シリア地震～」</p> <p style="text-align: right;">* 1-(4)トルコ・シリア地震支援に再掲</p> <p style="text-align: center;">日 時:2023 年 3 月 18 日(土)13:30～15:30</p> <p style="text-align: center;">場 所:兵庫区文化センター第三会議室</p> <p style="text-align: center;">講 師:岩城あすかさん(箕面市国際交流協会)</p> <p style="text-align: center;">参加者:15 名</p>

【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	<p>2022年度(2023年3月31日時点)の会員の状況:</p> <p>正会員 :28(団体2、個人26)</p> <p>賛助会員:123(団体0、個人123) 計:151名・団体</p> <p>*この数年の会員数の推移:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度 109名・団体 ・2019年度 144名・団体 ・2020年度 128名・団体 ・2021年度 120名・団体 ・2022年度 151名・団体 <p>2019年度からは、賛助会員の山本健一さんが地道に賛助会員加入の声掛けをいただいていることやトルコ・シリア地震支援で注目されたことで微増の状況が続いている。</p> <p>*リーフレットのカラー刷新</p> <p>2019年度に前スタッフがJICAの研修で学んだノウハウを生かして、新しいリーフレット案を作成したが、現在、岸本前理事にご協力いただき新たなデザインを検討していただいたが、実現には至っていない。</p> <p>*ソーシャルアクションリング(バナー広告)</p> <p>2015年度よりソーシャルアクションリングのHPでCODEを紹介してもらい、バナー広告をHPに貼る事で、毎年15000円の広告費を得ている。</p> <p>*Gochiso(ポイント寄付)</p> <p>Gochisoというサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みを2017年度から取り入れてきたが、2019年度からシステムチェンジをして現状、ほとんど寄付につながっていない。</p>

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	*2022年度は、トルコ・シリア地震支援で大きく注目を集めたことから報告会や講演の依頼

も増加した。

○教育機関：神戸大学、神戸学院大学、親和女子大学、兵庫県立大学、関西学院大学、大阪大学龍谷大学、関西国際大学、愛媛大学、金沢大学、舞子高校、葺合高校、神港橋高校、灘校、桃山学院高校、神戸龍谷高校、藍那小学校など

○組合：コープこうべ、近畿ろうきんなど

○その他：関西 NGO 協議会、大阪ワイズメンズクラブ、相生市金ヶ崎学園大学 FM わいわい、日本財団ボランティアセンターなど

* 当団体主催の報告会、講義は以下の通り。

◎CODE 寺子屋セミナー2022【若者と難民について考える】

* 1-(1)アフガニスタン救援、5-(1)CODE 寺子屋に再掲

「今、世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか

～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本～」

日 時：2022年8月7日(第1回)、9月16日(第2回)

場 所：対面(第1回)、オンライン(第2回)

第1回「海外からの難民、避難民に対して市民・NGOは何ができるのか」

日 時：2022年8月7日 10:00～12:00

開 催：神戸まちづくり会館（対面とオンラインも併用）

講 師：折居徳正さん(パスウェイ・ズジャパン代表理事)

田中恵子さん(RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク 共同代表)

参加者：62名

第2回「日本における難民の保護は適正か

～ウクライナ・ミャンマー等から見える日本の保護のあり方」

日 時：2022年9月16日(金)18:00～20:00

開 催：オンライン

講 師：渡邊彰悟さん(全国難民弁護士連絡会議 弁護士)

参加者：37名

◎第1次派遣報告会の開催 * 1-(4)トルコ・シリア地震支援に再掲

日 時：2023年2月26日(日)14:00～16:30

場 所：対面(ふたば学舎)、オンライン

報告者：植田隆誠(CODE インターン)、吉椿雅道(CODE 事務局長)

参加者：対面 37名、オンライン 88名

主 催：CODE 海外災害援助市民センター

◎CODE 寺子屋特別編「被災地を知る～トルコ・シリア地震～」

* 1-(4)トルコ・シリア地震支援、5-(1)CODE 寺子屋に再掲

日時:2023年3月18日(土)13:30~15:30

場所:兵庫区文化センター第三会議室

講師:岩城あすかさん(箕面市国際交流協会)

参加者:15名

◎トルコ・シリア地震「被災地はいま」報告会

* 1-(4)トルコ・シリア地震支援、4-(6)国内のネットワークに再掲

日時:2023年3月24日(金)18:00~20:00(トルコ時間 12:00~14:00)

場所:近畿ろうきん肥後橋ビル 12F メインホール

報告者:トルコより:島村優希(CODE 学生スタッフ)、吉椿雅道(CODE 事務局長)

会場から:植田隆誠(CODE 学生スタッフ)、山村太一(CODE 学生スタッフ)

参加者:68名オンライン(58名、対面10名)

主催:CODE 海外災害援助市民センター

共催:近畿ろうきん、関西 NGO 協議会

① 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。 * 4-(6)国内のネットワークに再掲

4/28 桃山学院高校生に講演(吉椿)

5/10 コープ深江「アフガニスタンから20年」で講演(村井理事)

大阪ワイズメンクラブ定例会で講演(吉椿)

5/20 関西学院大学復興学 A で講義(吉椿)

5/21 関西 NGO 協議会総会でウクライナ・ロシア支援を報告(吉椿)

5/25 近畿ろうきんラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO」に出演(吉椿)

6/25 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)

6/29 大阪大学人間科学部人間科学科「共生の理論と実践」で講義(吉椿)

7/12 コープ須磨組合員研修「アフガニスタンから20年」で講演(村井理事)

8/2 ワンネススクールで講演(吉椿)

9/14 近畿ろうきん職員研修で講演(吉椿)

10/18 灘中学「公民科授業」で講義(吉椿)

11/14 神港橋高校タウンミーティングで講義(吉椿)

11/18 舞子高校環境防災科「災害と人間」で講義(吉椿)

11/30 ウクライナスケッチ展で避難者支援の講演(吉椿)

12/13 神戸大学大学院国際人間科学部「地域復興政策論」で講義(吉椿)

12/18 ワンワールドフェスティバル for Youth「高校生ユースアクション報告会」で

コメンテーター(吉椿)

1/11 神戸龍谷中学高校の追悼礼拝で講演(吉椿)

龍谷大学「国際 NGO 論」で講義(吉椿)

1/12 相生市金ヶ崎学園大学教養講座で講演(吉椿)

1/16 関西国際大学セーフティマネジメント教育研究センター「国際防災協力」

で講義(吉椿)

1/19 福島双葉町スケッチ展で講演(吉椿、植田さん)

	<p>1/30 名古屋ウクライナ避難者支援のための情報共有会議で講演(吉椿)</p> <p>2/6 関西学院大学災害ボランティアサークル「つむぎ」で講演(吉椿)</p> <p>2/7 関西国際大学アジア提携校の学生に講義(吉椿)</p> <p>2/9 金沢大学「国際協力論」で講義(吉椿)</p> <p>2/10 葺合高校で講義(島村さん)</p> <p>2/16 葺合高校で講義(山村さん)</p> <p>3/6 藍那小学校「トルコ・シリア地震」の講演(吉椿)</p> <p>3/7 FM わいわい「トルコ・シリア地震」収録(吉椿)</p> <p>3/9 DRA 人と防災未来センター トルコ・シリア地震緊急会議で報告(吉椿)</p> <p>3/16 愛媛大学法文学部社会科学研究会で「トルコ・シリア地震」報告(吉椿)</p> <p>3/17 日本財団ボランティアセンターで「トルコ・シリア地震」報告(植田さん、吉椿)</p>
--	--

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年3回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	機関誌は全国各地へ約1000通発送 インターネットは不特定多数
実施内容	<p>現在、CODEの情報発信は、HP、メーリングリストに加え、SNSを活用した広報としてTwitterやFacebook、インスタグラムを活用している。</p> <p>2020年度に真如苑の基盤強化の助成金を活用して、ホームページの刷新を船曳桃子さんのご協力で行った。</p> <p>* 2021年8月にアフガニスタンの政変が起きたことにより、現地の人たちに迷惑がかからないようにCODEのHPのアフガニスタンのページを閉鎖している。また、FBでも過去のアフガニスタンの記事の個人名、地域、写真をイニシャル変更、削除することで対応した。</p> <p>* CODEレターの発送状況</p> <p>2016年度9月発行のVol.56より機関誌「CODEレター」をカラー化し、年間3回発行してきた。</p> <p>2022年度は、前期の事務局の人員不足により、2回、各1500部発行し、以下の通り会員、寄付者に発送した。</p> <p>Vol.70(2022/12/14発行)は、967部を発送</p> <p>Vol.71(2022/4/21発行)は、トルコ・シリア地震の寄付者へも発送したことから1383部に増加した。</p> <p>* SNSの状況</p> <p>学生ボランティアの原田梨央さん(2021年10月から長崎大学大学院)がTwitterや</p>

	<p>Instagramを活用してCODEの活動を若者向けに丁寧に発信してくれたことで各SNSのフォロワーが増加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FaceBook <ul style="list-style-type: none"> CODEのFaceBookに「いいね」をした人は、1795人(2023年5月時点) (2015年度末は648人、2016年度末は1125人、2017年度末1295人、2018年度末1407人、2019年度末1484人、2020年度末1540人、2021年度末1581人) ・FaceBookのフォロワー:1967人 <ul style="list-style-type: none"> (2020年度末1616人、2021年度末1680人) ・Twitterのフォロワー:817人 <ul style="list-style-type: none"> (2020年度512人、2021年度512人) ・Instagramのフォロワー:818人 <ul style="list-style-type: none"> (2020年度末628人、2021年度末747人)
--	---

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>2019年度より本格的に認定NPO法人の取得に向けて動き出し、会計に関しても今中壽一税理士(ひまわり会計事務所)にご協力いただき、これまでの会計処理を修正し、認定取得に向けて、市民活動センター神戸(認定NPO法人相談窓口事業を神戸市から受託している団体)や神戸市などと協議を行ってきた。また、榛木理事とも認定NPO法人を取得した2団体(テラルネッサンス、アクセス)を訪問し、ヒアリングを行った。]</p> <p>2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で神戸市も認定NPO法人に関する業務を一時休止していた。2020年度は、通常業務の傍ら、認定NPO法人取得に向けた寄付者名簿や会員名簿の整理を地道に行ってきた。また、コロナ禍によって寄付が減少したことから持続化給付金(200万円)と家賃給付金(63万円)を受給することができた。</p> <p>2021年度末、認定NPO法人の申請に関して神戸市に問い合わせところ、2020年度のNPO法人の報告書の提出が遅れたとみなされていたことが分かった。この件に関して理事会で議論をし、「長期事業計画を立てて将来的には認定を目指すべき」という指摘を踏まえつつも、事務局の負担などを鑑みて新たな申請に関しては少し様子を見ることとなった。</p> <p>2022年度は、CODEが法人として再スタートしてから20年の年という事で、若者を中心に6回のプレセッションを経て議論を交わした。</p>

	<p>* CODE20 周年記念事業 * 2-(4)CODE 未来基金に再掲 「20年先にあなたは何を伝えますか～若者と共に考える」 日時：2023年3月19日（日）14：00～16：30 開催：対面（こうべまちづくり会館）とオンライン 参加者：32名（うち若者10名）</p> <p>* 2022年度の主な動き： ○主な動き： 4/26 CODE 理事会 5/11 CODE・協働センター事務局ミーティング（村井理事、細川、増島、頼政、吉椿） 5/19 クラウドファンディング・ワーキング（室崎代表、宮本副代表、徳山理事、 村井理事、岸本理事、立部さん、原田さん、山村さん、黒瀬さん、吉椿） 6/3 会計監査（飛田監事、中川監事、村井理事、細川） 6/11 CODE 理事会・総会を開催 7/28 CODE クラウドファンディングワーキングを開催 （室崎代表、宮本副代表、村井理事、榛木理事、黒瀬さん、吉椿） 9/22 CODE 理事会 12/9 神戸市青少年会館登録更新手続き（吉椿） 12/17 休眠預金活用事業2次選考審査会でプレゼン（吉椿） 12/22 CODE 理事会 2/24 CODE 理事会 3/19 CODE20周年記念事業「20年先にあなたは何を伝えますか？」を開催 （室崎代表、芹田名誉理事、西海理事、冬頭理事、西田理事、山口理事、 村井理事、植田さん、山村さん、島村さん、細川、吉椿）</p>
--	---